

Support for **Woman Doctors** ～私からあなたへ～

高橋 清香(旧姓 家村)先生【岩手県 29 期】
岩手県立中央病院附属 沼宮内診療センター (内科)
長男 年長、長女 年少



「自治医大卒業後、私の一例」

私は、大学卒業後、県立中央病院で初期研修を行い、研修医 2 年目のときに 1 学年上の同業者と結婚しました。夫は医局人事で地域の病院をあちこちまわっていたので、結婚後の 2 年間は別居生活で週末婚状態でした。医師として 3～4 年目は地域の中隔病院の循環器内科として勤務し、4 年目の終わりに第一子を出産しました。出産を期に夫と同居生活を始め、約 1 年の育児休業を取得、その後、地域の病院の一般内科医として復職しました。夫の勤務地や子供の保育園、実家からの協力が得やすい場所ということなどを考慮し、私は車で片道 1 時間かけて通勤する生活を選びました。7 時半から始まる保育園へ子供を預けてから車で一時間かけて職場へ向かい、帰りも 18 時のお迎えに間に合うように高速道路を飛ばして帰り、その後夕食の準備、夕食、お風呂、歯磨きをし、21 時～22 時の間には寝かしつけるという毎日を過ごしました。夫は仕事で忙しく、当直や病棟当番で帰宅しない日ももちろんありましたので、育児はほぼ私一人が担っていました。そこで 2 年弱勤務した頃に、第二子を授かり、出産後再び約 1 年の育児休業を頂きました。そして、同じ病院へ復帰し 1 年勤務、その後、現在勤務している診療所へ異動となり今に至ります。現在も車で片道 1 時間かけて通い、生活スタイルはほぼ変わりません。同級生はすでに義務を終えた人も多いですが、私は育児休業を取得していますので、今も義務年限真最中です。

夫も同業ですが、私の出産のときを除いて、夫が子供を理由に仕事を休んだことはありません。夫は子供好きで、休みの日には家族サービスもしてくれますが、仕事や育児に対する思い入れが違うことから育児分担が決まったような気がします。夫は仕事、私は育児に一生懸命という構図でしょうか。子供の体調不良のときなどには実家の母にも協力してもらい、なんとかここまでやってきました。時

間的、物理的、肉体的な大変さと子供と過ごす時間をとってあげられない罪悪感など大変なことはありますが、子供のかわいさはもちろん、子供を通して自分自身が成長すること、子供がいることで見えてくる世界など良いことも盛りだくさんです。

子供を産んでからわかりましたが、私は、どちらかという仕事よりも子供を優先したい性格のようです。もちろん、優先するといっても患者さんを放り出して帰るとか、状況を考えずにわがままばかりを通すとかいうことではなく、組織や上司に交渉し可能な限りで家庭重視のスタイルを主張するということです。私が出来ない仕事は誰かが引き受けてくれている、そして、その誰かにも家族がいる、いつもそう思いながら申し訳ない気持ちで胸がいっぱいになります。ですが、それでも子供たちの母親は自分一人なのだからと、主張させて頂いています。もちろん、子供は家庭だけで育てるものではなく、社会から育ててもらふ面も非常に大きいと思います。親が無くても子は育つという言葉も真実だと思います。ですが、子供が親に求める愛情と注意を、出来る限り注いであげたいと思う自分がいます。そして何より、今しかない子供との時間を大切にしたい、そんな思いが強いのです。もちろん、自己実現と家庭優先のはざまでもいつも揺れ動いていますが、毎晩「世界で一番ママが好き」と言ってくれる子供たちを大切にしたい気持ちが勝ってしまうのです(親バカ全開)。最近の子供たちも大きくなり、育児に教育的な一面も出てきました。医師というすばらしい仕事を見つけた私たちのように、いつか子供たちにもそういうものを見つけてほしいと願っています。そのためにも、自己実現と社会貢献にむけて頑張る母の後姿もみせていかなくてはと思うこの頃です。

後輩医師・学生へ一言メッセージ

『 Health is based on happiness 』